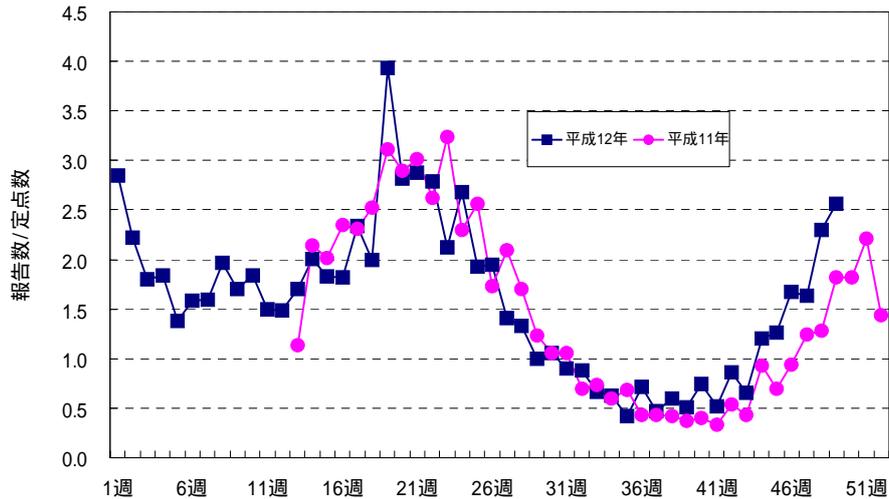


愛知県感染症情報

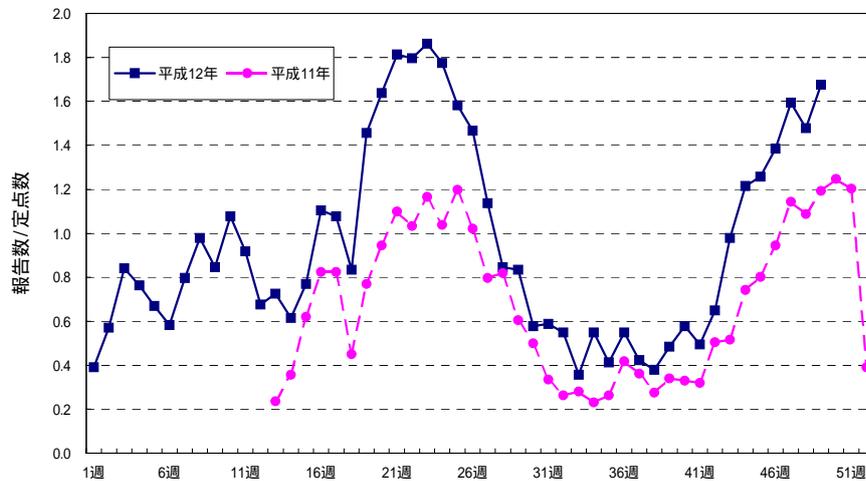
平成 12 年第 49 週（12 月第 1 週）

（コメント）

水痘、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎はいずれも流行中
ですから注意してください。



水痘(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日～)から)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日～)から)

（先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ A 型インフルエンザ（抗原迅速診断陽性） 10 ヶ月女
5 歳男児ムンプスはワクチン歴あり
感染性胃腸炎増えてきました。症状は軽く、点滴施行例はほとん
どなし。

（一宮市 あさのこどもクリニック）

- ・ 病原性大腸菌 2 名（O-1 2 歳男、O-18 21 歳女）
手足口病、水痘が増加しています。
（尾西市 城後小児科）
- ・ 嘔吐を伴う感染性胃腸炎が増加してきました。水痘、手足口病も相変わらず流行しています。
（岩倉市 なかよしこどもクリニック）
- ・ 急性胃腸炎非常に多い。ロタウイルスはまだ少ない。
（江南市 みやぐちこどもクリニック）
- ・ 感染性腸炎増加傾向
（新川町 三輪医院）
- 尾張東部地区
 - ・ 水痘が多く、マイコプラズマ感染症も相変わらず多くみられます。
（瀬戸市 津田こどもクリニック）
 - ・ ヘルパンギーナがまだありました。
今週は乳幼児で気管支炎に中耳炎を合併する症例が多く、入院例も目立ちました。
（尾張旭市 佐伯小児科医院）
 - ・ 単純ヘルペス性口内炎ちょこちょこ。
又、母の再発性ヘルペスよりカポジ水痘様発疹症 6 歳男
（美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院）
 - ・ 胃腸カゼひき続き多い。
（南知多町 医療法人大岩医院）
 - ・ 先週につづき下痢・嘔吐症多いです。
（春日井市 朝宮こどもクリニック）
 - ・ 咽頭結膜熱、ムンプスが流行しています。
（春日井市 かちがわ北病院）
 - ・ 乳児嘔吐下痢と水痘が多い様です。ポリオ接種後の発熱 3 人ありました。
（小牧市 鈴木小児科）
 - ・ 感冒性胃腸炎多くある（ロタではない）。ウイルス性膀胱炎あり。
（小牧市 小牧市民病院）
 - ・ 相変わらず胃腸炎が多いようです。
（東海市 小児科ハヤカワ医院）
- 西三河地区
 - ・ マイコプラズマ肺炎 2 名 （7 歳男、3 歳男）
腸管ウイルス性下痢症（家族性にも増えています）
（豊田市 やふそ小児科）

- ・ 病原性大腸菌 O-25 (1歳男、1歳女)、O-6 2歳女、
O-143 と O-153 9歳男
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
- ・ HFMD(手足口病)は今年2回目 4歳女
病原性大腸菌 O-1 8歳女
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ カンピロバクターと病原性大腸菌 O-1 VT1・VT2(-) 6歳女
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ 病原性大腸菌 O-6 VT(-)2歳男、O-1 VT(-)1歳男
(岡崎市 とみた小児科)
- ・ インフルエンザ1名:Flu OIA(+)、Flu A(-)
(岡崎市 栗屋医院)
- ・ 水痘、溶連菌感染症が増加。
流行性耳下腺炎も引き続き流行しています。
(碧南市 永井小児科クリニック)
- ・ 嘔吐下痢症が急増。水痘も増加。
(西尾市 やすい小児科)
- ・ マイコプラズマ肺炎2名(4歳女、5歳男)
(三好町 三好町立三好病院)
- 東三河地区
 - ・ 1歳男児、熱性ケイレンあり。ディレクティジェン FluA 陰性。
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)
 - ・ 2ヶ所くらいの施設にて溶連菌感染が目立つ。
水痘が少し広がりをみせています。
(田原町 かわせ小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

発生はありません

(全数把握の4類感染症の発生状況)

梅毒患者1名。

47週（11月20日～11月26日）の4類感染症の全国状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、流行性耳下腺炎、麻疹の定点当たり報告数が例年の同時期に比べやや多くなっている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は鳥取県で定点当たり報告数4.9、水痘は山形県で5.6、青森県で4.1と多くなっている。麻疹は奈良県と高知県で患者報告数が多くなっている。流行性耳下腺炎は埼玉県で定点当たり3.3の報告がある。感染性胃腸炎は現在のところ平年並みの流行曲線となっているが、京都府、宮城県、山口県、福岡県、石川県で定点当たり報告数が10を超えている。インフルエンザの活動性はまだ低く、全国平均で定点当たり報告数0.08となっている。咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナなど、夏季の流行疾患の定点当たり報告数が例年に比べかなり多い。ヘルパンギーナは愛媛県で定点当たり2.3と報告が多くなっている。流行性角結膜炎は宮崎県で定点当たり6.73、長崎県、熊本県で4.0、福岡県で3.4と九州地方で報告が多くなっている。

（Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報）

本格的な寒さが続くようになりました。小児科の外来実習の学生達に「手のひらと聴診器を暖めてから診察するんだよ」と声をかけたりしています。いつも貴重な情報を有難うございます。11月後半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：地区によってはまだ手足口病の発生が続いていて、髄膜炎の合併入院例も目立っています。衛生研究所のウイルス検査の結果はエンテロウイルス71型が分離されていますが特に増殖態度が変わっていて病原性が強いような特徴もなく、なぜ髄膜炎や脳炎が多いのかまだわかりません。ウイルス学的な検索待ちの状況です。一方、ムンプスの散発も続いていて無菌性髄膜炎の合併が目立っています（第一日赤有吉先生、城北病院渡辺先生、第二日赤岩佐先生、名東区高橋先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、労災病院山田先生）。気道感染症としては仮性クル-プとRSウイルス陽性の細気管支炎や気管支炎、マイコプラズマ感染症を含む肺炎（第一日赤有吉先生、国立病院伊藤先生、城北・渡辺先生、千種区今枝先生、名東区高橋先生、三菱・岩間先生、中京・柴田先生、労災・山田先生）、高熱を伴う咽頭炎（労災・山田先生）、A型インフルエンザがぼつぼつ（三菱・岩間先生）、などのご報告です。全市的に感冒性嘔吐下痢症・ウイルス性嘔吐下痢症ロタウイルス陽性例と陰性例があります）の発生がみられていて要入院例もありますが全体的には軽症のようです（城北・渡辺先生、名東区高橋先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生：細菌性胃腸炎の入院例もあり）。他に、第一日赤有吉先生からは麻疹（要入院）、ブ菌性火傷様皮膚症候群、千種区今枝先生と三菱・岩間先生からはヘルペス性口内炎の報告もいただきました。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは溶連菌感染症散発中、津島市民病院長田先生からはウイルス性肺炎、ムンプス、溶連菌感染症が目立ち入院例もあり、江南市昭和病院西村先生からはムンプスと溶連菌感染症目立つ、常滑市民病院上田先生からはムンプス、溶連菌感染症、突発性発疹、ヘルペス口内炎が散発中で、胃腸症状を主体とした急性上気道炎が流行していて嘔吐と脱水で入院を要する例がありとのお手紙でした。

3. 三河地区：豊田地区では手足口病がまだ流行中で髄膜炎合併例が目立ち、RSウイルス感染症（要入院例が多い）、マイコプラズマ感染症やや多くロタウイルス陽性の嘔吐下痢症の発生が始まっています（トヨタ病院木戸先生、加茂病院梶田先生）。岡崎市民病院系洲先生からは昨年と一ヵ月遅れくらいでRSウイルス感染症入院が増加、安城更生病院小川先生からはロタウイルス以外のウイルス性胃腸炎が増加、サルモネラ・カンピロバクタ腸炎の散発がまだ続き肺炎の入院がやや増加、知立市近藤先生からは水痘流行中、溶連菌感染症（学童）ムンプス、手足口病が散発中でカンピロバクターと病原性大腸菌感染症あり肺炎の要入院例3例、刈谷市田和先生からはムンプスと手足口病、水痘、伝染性紅斑が散発中、碧南市永井先生からは幼児から学童にかけて嘔吐を主症状とする胃腸炎とムンプスが目立つ、豊橋市からはマイコプラズマ肺炎、細気管支炎、感冒性胃腸炎、喘息発作が目立つ（長屋先生、宮澤先生）とのお手紙でした。有難うございました。

2000年10月27日号(75巻43号)

エボラ出血熱：ウガンダ。10月25日で176例(死亡64例)。患者周辺の発生。ポリオ生ワクチン接種と腸重積：弱毒生口ウイルスワクチン経口接種後に腸重積が多発する可能性が認められ、弱毒生口ウイルスワクチン経口接種が見合わせられている。同様の経口弱毒生ワクチンであるポリオ生ワクチンについて腸重積の発生と関連があるか広範な世界的調査が実施された。CDC、WHO、米州WHO(PAHO)が中心となって99年までの米合衆国、英国、カナダ、キューバにおける調査の結果の解析の結果ポリオ生ワクチン接種と腸重積の発生に関連はなく、従来どおりの接種が勧奨されている。

レジオネラ症：欧州。1999年における欧州各国の状況。93年以来の各国継続調査のまとめ。99年には28カ国から報告。多発しているのはベルギー、デンマーク、オランダなどであるが地域における感染や院内感染よりは旅行者感染症として国内旅行やリゾートの旅行で感染しているのが注目される。

インフルエンザ：本年10月。メキシコ、米合衆国。A型。

10月20日 - 26日届出：コレラ。ベニン、マダガスカル、南アフリカ、ブラジル。

2000年11月3日号(75巻44号)

エボラ出血熱。ウガンダ。11月2日で報告数262例(死亡81例)。WHOと国境なき医師団の調査と南アフリカ国立ウイルス研究所の検索から流行株は76年、79年にスーダン・ザイルで集団発生したウイルスに類似、病原性がやや弱いことが判明。

世界の麻疹の状況：ワクチン接種の普及の結果、確実に減少(注：本邦ではワクチンの接種率も麻疹患者の発生数も改善されていない。世界的な傾向からとり残された現状であり、いわば恥ずかしい事態である)。世界的な麻疹ワクチン接種率：99年においては85%(本邦では75%)。麻疹患者届出数(臨床的な確定例)：95年以降激減して97年だけ5万例となったが99年には3千例台。特に南北アメリカと欧州地区の減少が目立っている。WHOが麻疹撲滅のための作戦として今後強力に推進しようとしているのは、従来の発生状況・ワクチン効果判定のための正確なサバイランス網の確立維持と共に、戸別訪問によるワクチン未接種児のほりおこしと確実な接種(戸別訪問がポリオの根絶計画進展に非常に有効な方法であることが認められている)、戸別訪問による生後4歳までの確実な麻疹罹患状態を含めた追跡調査、が勧告されている。

インフルエンザ：10月。フランス：例年より少ない。ポーランド：ウイルス未検出。

10月27日 - 11月2日届出：コレラ。南アフリカ、インド、オマーン。

2000年11月10日号(75巻45号)

エボラ出血熱。ウガンダ。本年11月8日時点で286例(死亡94例)。

レブラ根絶キャンペーン：95年以来レブラの常存地を主体とした26カ国で進行中。公的保健医療機関による早期発見と多剤併用療法による治療だけでなく、NGOの草の根レベルの啓蒙活動が展開されている状況が99年、2000年に関してネパール、タンザニア、マダガスカル、ブラジル、インドなどについてまとめられている。

2000年国際感染症発生状況：ペスト、コレラ、黄熱の常存地の一覧表。

インフルエンザ：10月。アルゼンチン、カナダ、フィンランド、南アフリカ。AとB

11月3日 - 9日届出：コレラ。ニジェール、南アフリカ、香港。